

国際理解教育全体計画

重点目標

- 互いに尊重し合う子ども
 - ・思いやりと助け合い・自らを高める
- 意欲的に学ぶ子ども
 - ・『確かな学力』の向上・学び合う姿

国際理解教育の目標

* 英語学習を通して、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

低学年【英語に親しむ】	中学年【英語に慣れる】	高学年【英語を進んで使う】
・身近な英語に興味・関心をもち、英語に親しむ。	・日常の簡単な英語に親しみ、英語に慣れる。 ・自国と他国の言葉の違いに気付く。	・日常の簡単な英語を進んで聞いたり、話したりする。 ・自国と他国の良さを認め、広く世界に目を向けようとする。

達成のための具体的方策

- 1 ALT との活動を 1～4 年は年間 6 時間、5・6 年は 3 3 時間（外国語活動：年間 3 5 時間）行う。
- 2 子どもの実態に応じて、英語ノートにワークシートなど独自の制作物を加え、学習内容をより身近なものにする工夫をする。英語の教科化・中学校への接続を考え、高学年は書く活動を取り入れる。
- 3 学習をより効果的に楽しく行うために、発想を豊かにもつことのできる授業構成や、教材の工夫をする。
- 4 ふり返しカードを活用する。
- 5 廊下や教室の壁面を活用し、異文化の行事や外国語活動時に制作した作品などを掲示して紹介する。また、給食時などに、英語活動の時間に取り入れた英語の歌を放送で流すなど、他学年の外国語活動についても、全校で広く知ることができる工夫をする。

留意点

- ・ 学習内容を選ぶ際には、子供にとって身近なもの、楽しい活動がイメージできるもの、文化の違いに気付く要素のあるものを取り入れるようにする。
- ・ 子供の英語による表現は、生活経験に基づくもの、相手を想定した言い方、自分から働き掛けていこうとする言い方であることを考慮して活動を組む。
- ・ 授業では、外国語を通じてコミュニケーションを図ることができたかという視点を中心に、活動の様子やふり返しカードなどで判断する。
- ・ 復習を取り入れながら、自分の考えを相手に伝えることができることを目指す。
- ・ 打ち合わせの時間を確保し、ALT、担任が授業の事前に授業の流れや役割分担などを確かめておく。
- ・ ほめる表現を教師も子供も進んで使うように語彙を増やす。